

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473700399	事業の開始年月日	平成12年12月1日
		指定年月日	平成26年12月1日
法人名	社会福祉法人 みやび会		
事業所名	グループホームやすらぎの郷		
所在地	(227-0054) 横浜市青葉区しらとり台3-13		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名 ユニット数 1 ユニット
自己評価作成日	令和4年3月23日	評価結果 市町村受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

法人関係グループ内に、特養、老健、サービス付き高齢者住宅、訪問看護、訪問介護、居宅支援、看護多機能型、療養型病院等を有しており、必要に応じたサービスの提供及び連携が図れている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年4月16日	評価機関 評価決定日	令和4年5月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

東急田園都市線「青葉台」駅から徒歩10分、閑静な住宅街の一角にある、平屋建て1ユニット（9名）のグループホームです。

<優れている点>

認知症のバイブルとも称されるパーソンセンタードケア（一人ひとり、その人の立場に立ったケア）を基本として利用者に寄り添い、その人の輝きを引き出すケアを実践しています。介護計画では、日々のケア処遇項目として各利用者毎に4～5項目について、毎日、その日の担当職員が実施の可否と内容についてチェックしています。おやつ作りではぜんざいや芋ようかん、ホットケーキなどを利用者と一緒に作り、賑わいの笑顔がもらえています。排泄において、入居前自宅ではリハビリパンツを着用していた人が入居後、適宜排泄誘導をすることで布パンツの着用になった事例もあります。

<工夫点>

手づくりの食事を提供しています。利用者の希望により、献立を変えてリクエスト料理に変更するなど、利用者の希望に沿って柔軟に対応しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームやすらぎの郷
ユニット名	1ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	共有されていると思う。	法人理念の趣旨に沿って、短く分かりやすくまとめ、7項目に分けた理念を事業所理念としています。職員がいつでも見られる事務所に掲示し共有しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の一員として参加している。	町内会に加入しています。例年であれば、中学生の福祉体験の受け入れを行っていますが、今年度はコロナ禍により、中止となりました。地域のゴミ収集所の清掃や、回覧板を回すなどの地域交流は継続しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	活動できる機会が少なく、地域貢献までは至っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現況（コロナ化）では具体的な取組みは行われていない。今後、より具体的な取組みを進めていく予定である。	利用者家族のほか、地域住民および行政職員の参加を得て実施していますが、現在、コロナ禍により中止しています。これまでの会議の中で備蓄管理についての意見をもらい、改善に至った事例もあります。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	現状においては少なくなっている。	生活保護受給者の入居について区役所の生活支援課と生活扶助金申請などについて連絡を取り合っています。新型コロナワクチン接種に関しても連携をとって進めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束ゼロの実践に取り組んでいる。	ホーム内の「身体拘束委員会」を4名で構成しています。今年度の実施はできていませんが、身体拘束廃止の宣言をしています。スピーチロック（言葉の拘束）などの弊害について職員の理解を得るため、会議で取り上げ、一人ひとりの考えとその理解について話し合いをしています。	身体拘束等の適正化を検討する委員会を3ヶ月に1度の開催を厚労省事務連絡で示されています。マニュアルに沿って、日常現場で起こりうる場面の未然回避など様々な場面を想定した取り組みが期待されます。
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止について常に職員間で意識しながら支援にあたっている。	虐待防止マニュアルを作成していません。今年度は研修までは至っていません。虐待の要因として考えられるストレスの回避として、職員の希望の休みが取れるよう努め、リフレッシュしてもらえよう心がけています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要に応じて(OJT)確認している。また、年間研修にも取り入れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	事前相談時等も含め十分な説明は行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	適時、入居者の状態等も含め連絡をさせて頂きながら、ご家族の意向等もお聞きして支援等に繋がっている。	家族にはSNSを利用して、写真や動画を添えたホームの暮らしぶりを発信しています。家族より「入居してから本人の肌つやが良くなった」との言葉も貰っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	必要に応じての聞き取り及び支援に繋がっている。	個人面談を年に1～2回実施しています。管理者は一人ひとりの個性や経験に照らし合わせて、利用者にしっかり向き合うことを心がけています。日々の業務の中でコミュニケーションを通して対話を重ね、相互理解に努めています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	現状は厳しい状況がある。しかし、職場環境の構築には努めていきたい。	「就業規則」は事務所にあり、いつでも見られる状態にしています。マニュアルに沿った研修の実施には至っていませんが、職員間で話し合いをしています。職員は職場の環境づくりや利用者の笑顔にやりがいを感じ、日々の支援に努めています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	概ね職員の勤務年数が長いこともあり、力量等は把握できている。	職員会議で出た意見は上層部の助言も受けて、よりよい展開・改善に向けた努力をしています。外部研修の受講実績は、コロナ禍ということもあり、この1年間はありません。	年間の研修計画の着実な実施が望まれます。コロナ禍で対面が困難な場合は書面によるレクチャーやリレー方式等アイデアを駆使して実施することで職員全体のさらなるスキルアップが期待されます。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	現コロナ化においては外部等との関係づくりが少なくなっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前の意向なども踏まえ、適時生活状況等をお知らせしながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の生活上での希望や、現状と対比しながら適切なサービス提供内容を考え提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	常にコミュニケーションを図りながら共助者としての関係構築を築くよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者の思いを通して家族と共に支援していけるよう配慮している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在は面会等の制限などもあるが、関係性を継続できるような配慮や支援方法を検討していく。	入居時のアセスメントや入居後の本人・家族とのコミュニケーションで、これまで親しんできた日課を把握し支援に繋げています。朝の連続番組を入居してからも楽しんでいる利用者もいます。そのほか、馴染みの新聞を読んだり、知人との電話連絡などの継続支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共同生活における他の入居者との関係性の構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	以前のご家族との関係も残っており、必要に応じての相談等に応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	パーソンセンタードケアを基本支援とし、常に本人の意向も踏まえ職員間でのサービス提供内容を検討している。	利用者本位の支援に努め、職員は積極的に入居者とのコミュニケーションを図っています。利用者の変化する思いや要望に対応するように努めています。入居者の意向は、日々の申し送りで職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	情報提供に基づく内容や、事前面談時も含め、生活状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	常に職員間にて日常生活上の課題等も含め情報共有しながら支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	基本情報と現状における生活状況及び認知機能の程度を含めて総合的に判断しての介護計画を作成している。	介護計画は、各利用者の居室担当者を中心に意見をまとめています。一人当たり4～5項目の日々の計画を実施し、その日の担当者が確認し、取り組み状況を把握しています。これらを集約して3ヶ月に一度、モニタリングに反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	事実に基づき日々の暮らしの状況内容を記録することで情報共有を行い、適切な支援に繋げて行ける内容等の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者本人の生活状況及び健康面も含め、必要に応じてグループ内のサービスも検討しながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	現状では地域資源の活用までには至っていない。今後、支援内容等を考えていきたい。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医との連携は十分に構築されており、気軽に希望等も言える関係ができている。	協力医療機関の内科の医師が月に2回、歯科医と訪問看護師は毎週来訪しています。入居前のかかりつけ医の受診を継続している入居者もいます。家族が付き添いできない場合には、職員が対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間体制での看護体制は構築されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に医療機関との情報共有はできている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取り介護は行ってきており、今後も必要に応じて対応は継続していく。	本人と家の希望があれば、看取り介護を行う方針です。昨年も看取りの実績があり、訪問医および訪問看護師と連絡を取り合い、24時間体制で対応しています。職員全員が看取り介護の研修に参加して行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故発生、急変時の対応については日々話し合いが行われている。また、医師等よりも対応について意見を求めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	緊急避難等については確認できている。また、必要に応じてグループ内からの支援体制もある。	コロナ禍のため、実際の訓練は中止していますが、通常は消防署の協力を得て、年に2回避難訓練を実施しています。訓練の際は、隣家に住む建物オーナーの声掛けより近隣の協力も得ています。災害備品は1週間から10日分を確保しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人としての尊厳や個々のプライバシーには配慮し、対応に心掛けている。	呼びかけは、本人の希望を聞いて、名字または名前で呼んでいますが、年長者に対する礼儀と、プライバシーの確保に注意して対応しています。個人に関する書類は金庫で保管し、破棄する際にはシュレッダーを使用しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己選択、自己決定への配慮に基づき支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々の本人の状態（精神及び健康）に配慮しながらの支援を実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	整容については本人に配慮しながら支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食への楽しみを持ち続けることができるよう協力しながら行っている。本人の思考も考慮している。	食材は業者から購入し、職員が交代で調理しています。入居者も調理、盛り付け、食後の後片付けなどを手伝っています。入居者の食べたいもののリクエストや、それらを共に調理するなど食事を楽しむための工夫に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	健康維持管理の観点から、食事内容については十分に注意していきながら支援に繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアの実施はもとより、義歯等についても歯科医師等の指示をうけながら支援している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレ内での排泄を基本と考えて支援している。また、日々の排泄パターンを熟知した上で、適切な排泄支援に繋げている。	個々の排泄表を参考にして、適時にトイレに誘導するように心がけています。夜間に自分でトイレに行くことが難しく、失禁などの心配がある人には、声掛けを実施しています。適切な排泄支援によって、入居後に便秘症が改善された事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分、食事内容等も踏まえ、適切な排便が行えるよう努めている。必要に応じて医師からの助言等も頂いている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入居者本人の意向も踏まえ、無理のない範囲での入浴対応となっている。また、必要に応じて清拭対応も行っている。	入浴は本人の意向を聞いて、週に2～3回実施し、基本的には1対1で対応しています。決して無理強いせず、コミュニケーションを図りながら、入浴支援をしています。入浴剤を入れたり、音楽をかけたりして、表情が和らぐ入浴を工夫しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者の体調等を踏まえ、必要に応じての休息等の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師の指示のもと適切な支援に取り組むと共に、誤薬などがないように職員間で確認をしながらの与薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	現状は外出等が制限される中での楽しみを提供できるよう考え支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	近隣のマーケット等の同伴、家族にお願いしての外出機会の支援もしている。（誕生日、敬老の日陶	コロナ禍のため、外出は制限していますが、買い物支援は実施しています。外出できないときには、敷地内で外気浴を行ったり、室内でレクリエーションや体操をするなど、身体を動かして健康の維持増進に努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現状は本人が金銭管理は行っていない状況である。家族との外出時においての支援はお願いしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	必要に応じて、直接家族などと電話で話ができるような支援は行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	限られた居住スペース内での支援方法は考えている。	リビング、トイレ、廊下、キッチン、浴室など共用空間の清掃は職員が毎日実施し、次亜塩素酸を使用して消毒も行っています。日中は入居者のほとんどがリビングで過ごしていますが、一人ひとりの居場所を確認し、その場の状況に合わせて対応しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	現状のスペース内では完全に一人でゆっくり過ごせる空間の確保は難しいと考えている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	必要最小限の馴染みの物品等を持って来ていただきながら、居室内での安楽を感じて頂くよう配慮している。生活保護者には当方の物品等を提供しながら生活支援を行っている。	照明器具や防災カーテンは、事業所で用意していますが、自宅からの持ち込みも可能です。居室担当者がタンス内や部屋の環境などの整理整頓、必要なものの買い物、不用品の処分などを手伝います。居室の清掃は毎日実施し、入居者も一緒に清掃しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	認知機能の内容等に伴い、残された機能を活かしていただくよう配慮している。		